

ひだご坊
No.272
2012年3月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所
発行所 大町慶華
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ 照らされて

仏の名告り

馬川透



（略歴）
一九六一年生まれ。
富山県南砺市真教寺住職。
布教使として各地で法話をして
いる。

オウム真理教元幹部、
平田信容疑者を匿つて
いた斎藤明美容疑者が、
弁護士を伴って出頭して
きた。転居のたびに名前
を変えていたようだ。住
み込みで働いていた仙台
の料亭では山口今日子、
最近まで勤めた東大阪の
整骨院では吉川祥子と。
そして出頭時の告白文に、
「きょう私は十七年ぶり
に本名を名のりました。
偽りの人生は終わりにし
ます」とし、自首する前
に、福島県の実家に電話
し、「明るく美しい」名
をくれた両親にわびたそ
うである。

私達は、日常生活の中
で、あたり前のようにし
て自分を名告り、そして
自分の名前を呼ばれてい

る。電話が鳴ると「もし
もし、馬川さんですか」
と呼ばれ「はい、馬川で
す」と受け答えをし、家
族同士、「お父さん」「お母
さん」と相手と呼び合っ
ている。逆に自分の名前
を名告れない時は、疚し
い事をしている時であろ
う。自分の名前を知られ
ると都合が悪かったり、
恥ずかしいと思う時は、
名前を伏せようとする。

お母さんが
車にはねられた
お母さんが

しかし、自分の気持ち
を相手に伝えようとする
時に使うのも名前である。
以前、朝日新聞の「天声
人語」に、小学四年の児
童の詩が載っていた。

お母さんが
車にはねられた
お母さんが

これを聞いた児童に、
担任は「お母さん」は一回
でいいと指導したが、児
童は直そうとしなかった
そう。この児童の詩を
読んで感じるのは、私達
は必死で自分の気持ちを
伝えようとする時に名を
呼ぶのではないだろうか。

この如来の尊号は、不
可称・不可説・不可思
議にましまして、一切
衆生をして無上大般涅
槃にいたらしめたまう
大慈大悲のちかひの御
名なり。この仏の御名
は、よろずの如来の名
号にすぐれたまえり。
これすなわち誓願なる
がゆえなり。
（唯信鈔文意）

お念仏を申す身になる
とは、呼ばれ続けている
自分と願われ続けている
自分に気づくことではな
いだろうか。
斎藤明美容疑者を出頭
させたものは何であるう
か。それは、本名を名告
れないことの虚しさ、と
名前をつけてくれた両親
の願いに対する「すまな
い」という気持ちではな
からうか。



①法性寺 ②法然上人
③別れを惜しむ門弟たち ④板興
師資配流①「法然上人配流」

親鸞聖人絵伝下巻第一段「師資配流」
住蓮房・安樂房の師である法然上人も罪科を問われ、
還俗のうえ俗名藤井元彦を与えられ、土佐国の幡多へ
流罪と決まりました。上人は一二〇七（建永二）年二
月二十八日、吉水の草庵から小松谷の御堂へ、さらに
三月十六日に白川の法性寺へ移され、十八日早朝に
出立となりました。
前関白九条兼実はじめ醍醐の寛雅、仁和寺の慶作阿
闍梨など慕う方々や門弟が別れを惜しみました。上人
に深く帰依し「選撰本願念仏集」を授けられていた兼
実は、赦免・減刑に奔走しましたが叶わず、心労と失
意のなかで翌月亡くなりました。
上人は讃岐の国まで下向されましたが、同年十二月
八日には仮赦免となつて摂津国まで戻り、勝尾寺で過
ごされました。入京を許されたのは三年後の一二一二
（建暦元）年十一月十七日のことです。明くる年一月
二十五日、八十歳で還浄されました。



住職の言葉

念佛申すという事について

朝日高根組 長圓寺
白尾 宏

御同行の皆様方には、常日頃より、念
佛の声を聞かせてくださるとお願い申し
ている事でありますが、近頃では、法事
の席でもあまり念佛が聞かえてきません。
念佛を称えるという機会、回数が少なく
いので申せないのか、あるいはまた私は念
佛申す年令ではないと思うておられるの
か、さあどうでしょうか。
念佛は昔より親を呼ぶ声ですと聞
いていました。おとうさん、おかあさん
等々、親を呼ぶ声が念佛申している姿と
同じであると教えられていました。
又近年には、

「念佛は自我崩壊の叫びなり」
（金子大栄師）
と教示していただきました。私が俺がと
自我欲のかたまりの私の心がくずれ去る
時に、誠の真の念佛が声となつて口から
出てくたさるという事です。そして、最
近では、念佛は返事をする事ですと教
えてくたさつた先達がおられました。こ
れは浄土の世界から我名を称えよと願わ
れている私共が、その呼びかけ（願心）
に答えて南無阿弥陀佛と念佛申して返事
をする事であります。
私共はいつでも、どこでも、念佛申す
事が出来ているのか問われている身であ
りますので、念佛は、自身の耳に聞こえ
る声量で申せばよい事でありましょう。
念佛申す身に成っているのかどうかと、
改めて我身に問い聞いてくださると、お
願ひする事であります。南無阿弥陀佛。
南無阿弥陀佛。南無阿弥陀佛。 合掌

絵解親鸞聖人絵伝 22

恵信尼についてふれる最初の書物は、曾孫の覚上人の「口伝抄」第十一条である。そこに「恵信御坊」に註して男女六人の君達の御母儀とあり、生んだ子どもが男女六人であったことが知られる。このうち「恵信尼」に現れるのは、王御前・覚信尼(諸通・益方(第三通等)・小黒の女房(第三通・信連房・栗沢(第五通等)の四人である。他に高野禪尼と義絶された慈信(善覺)がいたとされる。生年がはつきりしているのは、信連房が一一一(承元)年三月三日越後(第五通)で、末娘覚信尼が一二四(元仁)年関東で生まれたこと(第四通)が、この「消息」で分かる。数百年後の本願寺第八世蓮如上人の子実悟が編集した「日野一流系図」に、恵信尼は「兵部大輔三善為教女」と記され、三善為教の娘と知られている。その出自である三善氏が、越後の豪族なのか、それとも京の公家なのかは、いまだに決着がつかない。この父三善為教は、関白九条兼実の日記「玉葉」で、恵信尼が生まれる数年前に臨時の越後介に就いた兼実の家司三善為則と同一人物ではないかの指摘がある。またこの三善氏は、為長、為康、為則と三代にわたって越後介に就任した家系ではないかとも考えられている。因みにこの中の為康は、越中射水郡出身で、三善為長の養子となり、算学者で「掌中曆」「朝野群載」等を著す一方、「拾遺往生伝」「後拾遺往生伝」を製作するほどの念仏者であった。それ

『恵信尼消息』 から見える親鸞像 越後の母

それまでの善人だけの往生伝ではなく、悪人の往生も加えた往生伝をまとめている点、法然の念仏の教えに近い人物とも評価される「恵信尼消息」第七通に「もし、便や候うとて、越中へこの文はつかわし候う也」とあるのは、為康の越中の実家を指すものかもしれない。比較山をただ「山(第三通)と記したり、日記や言葉遣いなどの点でも、恵信尼は京の出身であるとする見解が優勢なようである。ではその恵信尼が、後に関東を

益方以下の四人の子どもたちが先に越後に移住したようで、益方と小黒の女房がそこで家庭を持っていくことがわかる。また慈信(善覺)のみが常陸に下っている。その後一二五四(建長六)年頃までに恵信尼が、越後に移り住んでいる。京の五条西洞院の親鸞の住居には、肉親では、夫日野弘綱と死別し、長男覚恵を青蓮院に入室させた覚信尼だけが、長女光玉(宰相殿・第九通)を連れて身を寄せている。他に親鸞常隨の弟子蓮位と覚信尼の侍女若狭、計五人が同居していたと考えられている。この時、恵信尼は七十三歳、親鸞は八十二歳、そして覚信尼は三十歳という年齢である。まさに一家離散とも言えるような状況の中、夫親鸞の後事を覚信尼に託して、京を離れているのである。二つの事情を考慮して、その別居が何のためであったかといえは、その後の親鸞が、その命を削るようにして打ち込んで行く著述活動を見れば、その唯一の目的が分かる。「教行信証」の推戴「尊号真像銘文」「正像末和讃」等の著作「西方指南抄」等の編集、多くは八十三歳から八十八歳までの六年間に集中している。夫親鸞に思う存分の仕事に専念できる場所を与える。それこそが恵信尼が配慮した事ではなかったのか。そこに不仲説が入り込む余地はないように思える。この母の願いに充分に応えたのが、娘覚信尼にはかならない。

高山別院華方による立華ボランティア

仙台市の東北別院より3月4日に東北別院に於いて勤まる「真宗大谷派 仙台教区東日本大震災追弔会」の立華莊嚴をお願いしたいと依頼があり、去る3月2日、高山別院の華方の皆さんは東北別院を訪れ、本堂内陣の仏華を立てられました。

立華前日の早朝、材料や道具を積み込んだ車2台で、岩手県まで足をのばして宿泊し、翌朝「奇跡の一本松」が残る陸前高田市を訪れました。

市の中心部に向かうと、震災より一年を経た今において、ある程度の整地はされていても、その傍らには大きな瓦礫の山があり、鉄骨が剥き出しになった建物が、いくつかそのままの姿で残っていました。3階部分まで到達したであろう津波の残した爪跡を見て、改めて地震や津波の恐ろしさを体感する中で、多くのいのちが失われたその現場に、ただ立ち尽くすより他ありませんでした。ある方は「声も出ん。何も出来ん。ただ念ずるのみや」と、その実感を口にしていました。

午後から東北別院へ向かうと、まず本堂において正信偈をおつとめし、東北別院輪番より挨拶を頂いた後、それぞれが丁寧に、思いを込めて「高山別院流」の華を立て、追弔会に向けた厳かな莊嚴がなされました。

時と共に風化しつつある震災と改めて向き合い、一人ひとりが心に刻み直す大切な機縁になったのではないかと思います。



▲立華の様子



▲東日本大震災追弔会

高山別院「中村久子展」開設

昨年、親鸞聖人七百五十回御遠忌法要期間中、東本願寺に於いて展示された「中村久子展」生きる力を求めて」が、高山別院寺宝館にて常設展示されることになり、3月19日(月)に開設式典が行われました。この展示は、高山へ訪れる観光客の方にも広く、お念仏と共に力強く生きられた中村久子さんを知って頂きたいという願いがあります。皆さまも近くに寄られました際には、ぜひ足をお運び下さい。



場 所：高山別院 寺宝館
開館時間：午前9時～午後3時まで
拝 覧 料：無料
※見学の際は別院事務所にお声掛けください。

高山別院 蓮如忌法要

日時 3月25日(日)
午後1時から
内容 お勤め、法話
講師 黒田進氏
(元修練道場長)
講題 「御文に聞く」

大谷婦人会 追弔会・総会

日時 4月11日(水)
午後1時から
会場 高山別院 本堂
講師 大町慶華輪番
皆さんの皆様のお参りをお待ちしております。

報告

2月22日(水)に高山別院にて開催された「婦人聞法会」におきまして、東日本大震災の義援金として、23,692円を参加者の皆様よりお寄せいただきました。ご協力誠にありがとうございました。

高山二組坊守会